

12月定例会の一般質問は、14日、15日の両日行われ、8名の議員が市政各般にわたり、一般質問を行いました。

市政を聞く 一般質問

一般質問の原稿は、各発言議員が作成しています。



池尾 正彦
議員

問① 小学校統廃合対策の進捗状況について。

答 6月議会答弁後、学校統合について正しい判断をしてもらえようとするための説明資料がこの10月にできあがった。この資料をもとにして、この12月中には東部4地区(松永・国富・遠敷・宮川)の役員の方々と学校の教員を対象に説明会を開催し、地区役員の方々から出た意見や要望を受け、すり合わせを行った上で、平成22年3月には東部4地区の住民を対象に説明会を開催する。

問② 鳥獣被害対策について。

答 鳥獣害対策については、行政での対策はもとより、集落が主体となり、みんなの力をあわせ対策を進めていくことが重要である。有害鳥獣の死骸処理問題については、嶺南6市町共同で活用する償却および食肉加工施設を若狭町に整備することになった。

問③ 小浜ロッジ閉鎖後の対応措置について。

答 従業員の就職には、誠意をもって対応する。建物は平成22年度に解体し、更地にして、当面は駐車場として活用する。



下中 雅之
議員

問① 県立高等学校再編整備計画において、食のまちづくりを標榜する小浜市は、職業系高等学校の重要性をどのように考えているのか。

答 農業、水産業、水産加工業など地域産業の重要な担い手を養成しているという意味から、若狭東高等学校、小浜水産高校、両校の果たす役割は重要なものと考えている。

問② 教育長の高等学校再編整備計画に対する考えを伺う。

答 県全体の枠組みの中で、水産系の学科をどう育てていくか、抽象的・非現実的なことで

なく、具体的・実現可能な要求をしていくことが現時点で必要なことと考える。

問③ 小浜市の男性介護者の現状と課題について。

答 実態については把握していないが、7月末現在で妻が要介護状態となっている高齢者世帯は102世帯であり、介護や家事に不慣れた男性介護者に対しては、きめ細かい支援が必要。

問④ 市営住宅における高齢住民に対する今後の取り組みを伺う。

答 入居者同士の相互理解が得られた場合、高層と低層の入居替え等を検討していきたい。



能登 恵子
議員

問① 3人乗り自転車に補助を求める。

子どもを乗せた自転車の年間死傷者は1,800人と危険なため「道路改正法」により安全基準を設けた3人乗り自転車に、高額で買にくい子育て世代のため補助し支援すべき。

答 県内では少数。他の自治体を見て検討。

問② 肺炎球菌ワクチン接種を積極的に進める。新型インフルエンザがワースト1の福井県内、65歳以上の高齢者にはワクチンがまだ回らない状況。肺炎球菌ワクチンにより肺炎の重症化予防が可能になり、また2回目

接種も許可された。もっと進めるべき。

答 高齢者の肺炎抑制にかなり有効であり、その啓発を図る。

問③ 高齢者自立支援事業について。

緊急通報装置を65歳の年齢制限を緩和し、必要な世帯に利用を広げるようにしては。

答 60歳以上の実質一人暮らし老人世帯と変わらない世帯について個別に判断・対応する。

問④ 「平和市長会議」への加盟と活動のため、ふるさと納税に基金を設け市民協働を進めたらどうか。

答 前向き。寄付者の意向があれば創設。



佐久間 博
議員

問① 新たに整備する道の駅の位置づけとその運営は。

答 まちの駅に総合案内所を設け、道の駅は情報発信保持拠点としたい。観光局が指定管理者になることも視野に入れている。

問② 政権交代で、中心市街地活性化基本計画の認定が無くならないか心配だが見通しは。

答 国に確認したが、廃止の予定は無いとのこと。関連予算が縮減された補助メニューもあり、今後注視していく。

問③ 中心市街地活性化協議会の設立、認定申請

のバックスケジュールは。

答 来年度早々に活性化協議会を立ち上げ、来年夏頃に国へ認定申請の準備をする。

問④ 琵琶湖若狭湾快速鉄道の課題は。

答 事業主体の明確化、事業費の財源確保、滋賀県の合意が主な課題となっている。

問⑤ 民主党政権下の市長の今後の取りみは。

答 若狭の先人から地域住民の悲願であり、北近畿地域の振興を図るため、国の政策に変化があらうと、粘り強く取り組む。



風呂 繁昭
議員

問① 「経済対策と来年度予算について」

小浜市の経済状況をどう把握しておられるか。どう分析されているか。プレミアム商品券を2日間で完売されたが継続助成はできないか、商工会議所と連携してほしい。また、他市で実施しているマル経融資の利子補給はできないか。小浜市の景況調査を実施し、産業調査員または緊急雇用経済対策として相談員を雇用するよう再検討を願う。その上で小浜市の経済状況を踏まえ来年度予算編成を。特に税収減の中、産業活性化につなげてほしい。

答 検討します。

問② 「企業誘致の現況と今後について」 ことし3月契約締結後9カ月も経っている。もう少し積極的に日本電産シバウラおよび親会社の日本電産に誘致活動ができないものか。1兆円売り上げを目指す企業である。特に強烈な個性を持つリーダーである社長にトップセールスを願う。誠意、熱意を伝え、商売は夜打ち朝駆けである。理系の大学卒の従業員が必要なら、小浜市独自で卒業地元就職の条件で奨学金制度を創設するとか、若い人を助ける場所づくりに力を注いでほしい。

答 検討します。



宮崎 治宇蔵
議員

問① 河内川ダム問題について。

答 今後の関連事業費には、事業負担金は16億2,800万円。北川の表流水水源とするための浄水場建設に約58億円が必要。ダム事業は今後も進めていく。

問② 「つばき回廊」業務棟売却問題について。

答 教育委員会において用途廃止を行った上で市長に引き継ぎ、その後、市長が行政財産を普通財産に変更し、市長の権限において普通財産として売却する予定である。

問③ 小浜市新こすもすプラン2011について。

答 ふれあいサロンの20年度実績は、87会場で504回開催、7,435人が参加した。行政と市民との連携による総合的な地域ケア体制づくりに取り組む。

問④ 後期高齢者医療制度について。

答 資格証の運用について、国は原則として交付しないことを基本方針としている。

問⑤ 国民健康保険の負担軽減について。

答 要綱の制定には、特別な理由について明確な基準が示されず、現時点では難しい。

問⑥ 新型インフルエンザ感染対策について。

答 1ヶ月の短期証を交付する。



三木 尚
議員

1. 行政全般について

①. 国の事業別仕分けが税金の使われ方に対する国民の関心を大きく高めたが本市の基本姿勢はどうか。 ②. 今後、国に対しての予算要求は従来にまして厳しくなるがどう対処するか。

2. 地域活性化策について

①. 本市のまちづくりの長期戦略と展望について。 ②. 北近畿地域の各市が大健闘しているが参考にすべきではないか。 ③. 府中ICの道の駅を観光局、情報発信局として活用すべきではないか。 ④. 小学校の統合化をこのような不況下で推進すると教員の削減につながり地域の衰退につながるのではないか。

3. ワンストップサービスの導入について
①. 市役所内への来庁者に対して配慮しているか。 ②. 失業者、求職者に対し、ハローワーク等と連携して体制作りができないか。 ③. 来年度高校卒業者の就職状況は。

以上が主な質問内容です。紙面の都合で答弁は割愛します。



松崎 圭一郎
議員

1. 観光局について問う

問① 観光による効果は地域づくりの成果として現れ、その成果は地域づくりに波及すると考えるが、いまだ一向に観光局の姿が見えてこないが状況は？

答 来年度創設に向けた準備を進めている。

問② 観光交流人口の拡大のみを求める原始型観光は時代遅れといわれているが、他に手立てはないのか。また、食のまちづくり条例に固執した施策には限界あり、観光に特化した新たな観光ビジョンを作る必要があると思うがいかがか？

答 旅行スタイルが多様化する中、体験型観光へのシフトを考えている。また、ビジョンは第5次総合計画の中で考えていきたい。

2. 特定失踪者対策について問う

問① 先般、鯖江で行われた国民大集会は、中井大臣も参加されたが、新政権のパフォーマンス的な部分も否めず、依然として国は、第一線で必死に戦っている特定失踪者問調査会を避けているが、市は今後どのように考えるか？

答 自治体間でのネットワーク化も提案されており、本市も積極的に参画していきたい。

携帯電話から議会ホームページがアクセスできます。

次回の議会日程や一般質問通告一覧など、パソコンでなくても議会情報を見ることができるようになりました。

載せてほしいという情報がありましたらお気軽にご意見をお寄せください。



**ケータイで
議会情報をGet!!**

URL はここから →

